

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	早稲田大学
整理番号	Ⅱ-5
事 業 名	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 本事業は、早稲田大学大学院で日本語教育学を専攻する学生及び学部副専攻として受講する学生を ASEAN 諸国に派遣し、日本語教育の専門家を養成するとともに、相手国における日本語学習者の多様なニーズに対応する日本語教育カリキュラムを構築し、実践的な日本語運用能力を様々な分野で活かし活躍する人材を育成することを目的に実施された事業である。 </p> <p> 事業展開では、ASEAN 地域における代表的な日本語教育機関6大学と交流を開始し、平成26年度に4大学を新たに追加しながら実施され、交流学生数は派遣及び受入ともに目標には至らなかったものの、交流活動は活発に行われており、事業運営への努力がなされている。特に、海外実習に参加した派遣学生による報告や企画案のアドバイスなど、派遣により得られた経験や知識を次期派遣学生に伝授する手法は、教育の質の向上に効果的である。学生の派遣・受入のための環境整備についても、これまでの留学生受入の実績を有効に活用するとともに、各相手大学との間で設置した共同プログラム委員会において受入学生の学習状況が情報共有されているほか、長期派遣学生については所定年限内で修了可能な制度が整備されている。また、派遣学生は、プログラム参加により英語だけでなく各国の言語を学ぶなど、グローバルマインドの醸成に繋がっている。このほか、早稲田大学と各相手大学の関係者及び外部有識者からなる共同評価委員会による事業の実績と成果の検証や、成功事例の共有、過去に参加した学生を含め日本語教育を学ぶ学生同士の繋がりを広める専用ウェブサイトの開設と SNS での情報発信など、事業の継続的な発展に努めている点は評価できる。 </p> <p> 一方で、短期間の派遣で学生が修得できる内容の詳細や、相手大学のニーズ等を満たしているか明確ではない。早稲田大学の日本語教育の実績を活かした事業継続を目指し、十分な分析と特徴ある取組計画の実行に加え、安定的な資金確保に努められたい。 </p> <p> 最後に、近年人工知能を用いた同時通訳時代が始まりつつあるが、日本語教育研究を先導する大学として新時代に即した教育の在り方を確立し、我が国の教育の質を確保したグローバル展開力強化に貢献されることを期待する。 </p>